



町長のしごとと日記

～元気で笑顔のあふれる福島町を実現するために～

【全国の中学生が横綱の里の土俵で躍動・・・】

季節が八月に入り雨の日が続く、一日おきに空模様が変わるなど、季節は確実に夏から秋へと移ろいでおります。

地球温暖化の影響で発生が増えていると思われる線状降水帯や局地的な大雨などによる災害が全国的に多発しており、十年、二十年先を心配しているのは、私だけでしょうか？

八月十三日(土)に三年ぶりとなる「第三十四回やるべ福島イカまつり」が海峽横綱ビーチで開催されました。前日の雨で天候が心配されましたが、当日は好天に恵まれ、多くの帰省客などで賑わいました。午後八時からは「福島町元氣プロジェクト」が行われ、夜空を彩る約二千三百発の花火が打ち上がり、最後の花火が打ち上がった瞬間は拍手が上がるなど、最高の盛り上がりとなりました。

会場はもとより町内各地、

思い思いの場所で、夏の花火を楽しんでいたのも引続き、新型コロナウイルス感染症に負けないよう、町民みんなが元気に頑張りましょう！

八月二十日(土)、二十一日(日)の両日、町総合体育館において、令和四年度全国中学校体育大会・第五十二回全国中学校相撲選手権大会福島大会が開催されました。

当町での開催は、平成十五年以来二度目の開催となりますが、今回も町民の皆様のご理解により未来ある子どもたちに最高の舞台(土俵)を提供することができました。

当日の大会には、遠くは沖縄県、鹿児島県をはじめ全国の都道府県から約二百八十名の選手が参加し、個人戦及び団体戦の熱戦が「横綱の里」の土俵を舞台に繰り広げられました。

地元福島中学校からは、

吉田飛龍君と龍登君の兄弟が参加し、全国の強豪に果敢に挑戦する姿にたくましさを感じました。

また、飛龍君は開始式で参加選手を代表し、堂々と選手宣誓を行い、その言葉の力強さに、頼もしさを感じました。

大会での成績は、個人戦の優勝者が鳥取県琴浦町立東伯中学校の西村和真君で団体戦の優勝校が千葉県柏市立第二中学校となっております。優勝された方々にお祝いを申し上げるとともに、今後の更なる活躍を期待いたします。

この度の開催にあたり、ご尽力、ご協力いただきました関係者の皆様、また、ご支援いただきました団体・事業者の皆様へ感謝とお礼を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が日本で初めて確認されたから三年目を向かえておりますが、全国的に第七波が急速に拡大し、八月に入

り町内においても感染者数が急増しております。

福島町で令和三年八月に初めて感染者が確認されてから今年の七月までは、月平均三人程度と渡島管内でも一番少ない感染者数で推移してはりましたが、八月に急増しております。ただ、九月中旬に入り感染者はゼロとなっております。

なお、これまでの感染者数は、八月末現在、百九人となっております。感染者の年代では八十年代と四十年代が十五・六%と一番多く、次いで二十代の十三・八%となっております。

全国及び全道の状況を見ますと八月十九日をピークに減少に転じておりますが、高止まりしている状況にあります。町では、四回目のワクチン接種を実施しておりますので、多くの方が接種くださるようお願いいたします。